令和８年度　第２回　丸塚中学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開催日時　　令和８年９月１８日（金）　１３時３０分から１５時３０分まで

２　開催場所　　丸塚中学校　図書室

３　出席委員　　稲垣　邦圓、尾上　弘、名倉　善郎

鈴木　厚子、湯山　紀美代、佐藤　香澄

田嶋　節子（学校支援コーディネーター）

４　欠席委員　　酒井　里江子、青木　優衣

５　学校　　山下　孝二（教頭）、平野　大輔（CS 担当教諭）
石津谷　訓子（CS ディレクター）

６　傍聴者　　なし

７　会議録作成者　CS ディレクター　石津谷　訓子

８　議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、尾上副会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

９　協議事項

（１）地域での過ごし方について
（２）交通マナーについて
（３）本校のいじめの状況について

１０　会議記録

司会の教頭山下から、委員総数９人のうち７人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）地域での過ごし方について

議長の指示により、平野から１学期にあった本校生徒の公共マナーに関する事案報告がされた。

事案の概要：近隣の飲食店（ファストフード店等）における騒音及び長時間の滞在。

学校の対応：教頭が二度にわたり現地で直接指導を実施。さらに、放課後の帰りの会において、店舗や他客の立場を想像させる道徳的指導を行った。

委員からは、以下の発言があった。

・　以前、公共の場で丸塚中の体操服を着た子たちが、お菓子や飲み物を広げて、長時間滞在しているのを見かけた。勉強していた様子で、騒いでいるわけではなかったが、みんなが使う休憩スペースに長時間滞在していることは、少し気になっていた。（湯山委員）
・　他県で、中学生のみでのスーパー入店不可の対応をしたというニュースがあったが、そうならないように気を付けなければならない。（田嶋委員）
・　丸塚中のクラスＴシャツや体操服を着ているなら、本人たちは悪気があったわけではないかもしれない。はしゃぎすぎて制御が効かないというより、マナーを「知らない」ことが多い。先生方は大変だったかもしれないが、地域から連絡があるのは、指導してくれるであろうという期待でもあるので、社会の常識を教える良い機会にして欲しい。（尾上委員）
・　小学校で読み聞かせをしている。小学校生活にスムーズに適応するために「スタートアッププログラム」が導入された。そのため休み時間も短くなり、以前のように校庭でたくさん遊んだり、子供同士で衝突した時、自分たちで解決したりする経験が減少している。経験や知識が乏しいために、「なぜ叱られるのか」も分からず、自分たちで問題解決ができない状態。だからこそ中学で問題が起きた時、一つ一つ考えさせて教えていく時間を確保していく必要性を感じた。（鈴木委員）
・　以前、敷地内に勝手に入ってきた小学生を注意したことがあるが、次からはインターホンを鳴らして「ボールを取らせて下さい。」と断りを入れてきた。経験がないだけで、しっかり教えてあげれば出来ると思う。（田嶋委員）

以上の協議の結果、全員異議なくこれを了承した。

（２）交通マナーについて

議長の指示により、平野から登下校の状況とグリーンベルト通行ルールについて説明があり、委員からは以下の発言があった。

・　横断歩道の信号が青に変わる前に渡る「見切り発車」や、３列並進になって道路にはみ出しそうになる場面を見かけることがある。（田嶋委員）
・　学校から離れた場所では、白線の中を一人か二人で歩いて、広がっている様子は見ない。昔は網に入れたボールを蹴りながら歩いている子もいたが、今は見かけない。（稲垣委員・尾上委員・名倉委員）
・　今年４月から自転車の交通ルールも変わり、自転車通学の高校生も気を遣っている。また、近年はエンジン音が静かな車も増えて、背後からの接近音に気づきにくい為、歩行者も「車が止まってくれる」という思い込みを持たず、周りに配慮が必要。（尾上委員）

→　公園などでもボール遊びなどは制限があり、結果遊ぶ場所が減り、自宅前の道路などで、ボールを使った練習をして近隣敷地や他の道路に迷惑がかかることもあった。（平野）

・　夏休みは外で遊ぶ子供の声がしていたのに、最近はほとんど聞こえない。暑いの

もあるが、子供が安心して遊ぶ環境が減っている。（田嶋委員）
以上の協議の結果、全員異議なくこれを了承した。

（３）本校のいじめの状況について

議長の指示により、平野から、本校のいじめの状況について説明があった。

現状：浜松市の「積極的認知」方針を堅持。認知件数の推移は、例年年間 50～70 件に対し、今年度は現時点で 30 件ほどなので、ほぼ横ばい。悪質・深刻なものは少なく、ほとんどが「未熟な関わり合い」の末に起きた事例。いじめアンケート「シャボテン」の定期実施、生徒間ではシャボテンで報告することを「シャボる」と共通言語化するほど浸透している。

委員からは以下の発言があった。

・　シャボテンは抑止や牽制になっている部分もありそうだ。ただ「シャボる」という言葉が脅しに転じることはないか。（尾上委員）

→　生徒から多少の報告はあるが、今のところ言われたことで「やめなくては」と手や口が止まる効果がある。認知した場合は、双方の保護者へ連絡し指導も行うという約束を徹底している。（平野）

・　言葉（対話）を通して、お互いの気持ちを伝え合って解決できるようになることは、いじめ防止だけでなく、広く人間としての成長につながる非常に価値のある取組だと思う。この方針になった時は大変だったと思うが、今はどんな変化が見られるか。（尾上委員）

→　当初は保護者も職員も試行錯誤だったが、数年経ち積極認知と徹底した指導手順が浸透してきた結果、現在の落ち着いた状況に繋がっているのだと思う。（平野）

以上の協議の結果、全員異議なくこれを了承した。

○　その他報告事項等

教頭山下から、次回運営協議会は令和８年１１月１８日（水）、第４回運営協議会は令和９年２月１６日（火）に開催予定である旨の報告があった。